

# 令和6年度第1回総合教育会議 議事録

## 1 開催日時

令和6年6月26日（水） 13:15～14:45

## 2 出席者

### (1) 構成員

市長	園田 裕史
教育長	遠藤 雅己
教育委員	中嶋 剛
教育委員	船橋 修一
教育委員	朝長 昭光
教育委員	宮本 真由美

### (2) 説明者

教育政策監	江浪 俊彦
教育次長	川下 隆治
こども未来部長	杉野 幸夫
教育総務課長	楠本 奈津子
学校教育課長	堺 邦寿
文化振興課長	大野 安生

### (3) 事務局

企画政策部長	山中 さと子
企画政策課長	三岳 和裕

## 3 協議

- (1) ミライへつなぐ学校教育プロジェクトの進捗について
- (2) 芸術文化の振興策の現状とこれからについて

## 4 その他

## 5 閉会

### [資料]

- 1 ミライへつなぐ学校教育プロジェクトの進捗について
- 2 大村市統一型制服導入に伴う「新たな生徒心得」について
- 3 大村市統一型制服着こなしガイド
- 4 芸術文化の振興策の現状とこれからについて

## 企画政策部長 山中 さと子

定刻になりましたので、ただいまから令和6年度第1回総合教育会議を開催いたします。

本日司会をいたします、企画政策部の山中です。よろしくお願いたします。

本日は佐古委員がご欠席となっております。

それでは会議に入ります前に、お手元の資料の確認をお願いいたします。

配付しております資料は、会次第、出席者名簿、配席図、それから本日の議題の協議資料といたしまして、1. ミライへつなぐ学校教育プロジェクトの進捗について、2. 大村市統一型制服導入に伴う「新たな生徒心得」について、3. 大村市統一型制服着こなしガイド、4. 芸術文化の振興策の現状とこれからについて。以上でございます。不足等ございませんでしょうか。

それでは早速、会議次第に沿って進めてまいりたいと思います。開会にあたりまして、大村市長園田 裕史がご挨拶申し上げます。

## 大村市長 園田 裕史

皆さんこんにちは。本日は令和6年度第1回目の総合教育会議に、大変お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

また、日頃から大村市の教育行政全般にわたりまして、本当にいろんな形でご助言、ご指導を賜りまして、ありがとうございます。

私が今着用しているものですが、今度7月23日からボートレース大村で開催される、SGオーシャンカップと言われるビッグレースをPRするボウリングシャツになります。SGコンプリートアニバーサリーという形で、SGレースというのは、8大競走で8つあるんですけど、8つとも全部取りました。全国24場あるうちの、8つとも全部SGを開催しているのが、大阪の大都市の住之江と大村だけです。昨年度は、SGレースというビッグレースがなくても、売上げ日本一になりまして、それはボートレース71年間の歴史の中で、SGがないところが売上げ日本一になったのは、史

上初ということで、昨年度、4年連続日本一を獲得することができました。今年度は、夜開催しているミッドナイトレースというのも昨年度より倍になりますし、SGレースはこうやってありますので、今年度も5年連続売上げ日本一になるというのが、ボートレース大村の至上命題だということで、管理者に発破をかけているところです。

こういったボートレースの収益金を、今まさに実行している小中学校の校舎の建て替え、長寿命化、改修、改造、こういったものに充てさせていただいています。

もちろん教育委員の皆さんもご承知のとおりですが、大村市は人口が今もずっと増え続けていて、もう今年、年度内には10万人いきますということで、子どもの数も減っていない。竹松小学校、富の原小学校は、マンモス校で県内1位、2位ということで、こういった状況がある中で学校の建て替えをしていかなければなりません。ニュース、新聞を見れば、長崎県内、例えば長崎市、島原市、佐世保市とかの3つの学校を1つに統廃合するということが、よくニュースに出ていますが、大村は遠藤教育長の方針のもと、安易な統廃合はしない、安易などうか統廃合しないということです。つまり、21校すべてを建て替える方針を進めていく。そこにお金は何百億もかかりますので、それにボートの収益をきっちり充てて、将来の子どもたち、将来世代にツケを残さない、今やれることをきっちりやっておくということにお金を使わせていただくように、議会でも説明しています。向こう10年は、計画をずっと組んでいますので、建て替えが進みます。10年後も次の計画を作りますから、そう考えると30年ぐらいずっと建て替えが進むのではないかというふうに、計画をされているところです。こういったこともあって、諫早市、それと東彼杵町が、給食の無償化を始められていますが、全国のいろんな自治体でも、特に市長選挙があったりすると、給食を無償化しますということを公約に掲げられているところが始めたりす

ることがありますが、それを否定はしませんが、諫早市でいうと、1年間で、6億円ぐらいかかります。ということは10年経つと60億です。決して否定はしませんが、とても大変になるということ現場の職員からは聞いています。これがいいかどうかというのは、私はよく考えなければいけないのではないかと選挙でも言いましたし、まずは、給食は申し訳ないけれども、ご協力いただいて、この建て替えとか、将来的なハード整備のものにボートのお金を活用させていただきますと言って、再選させていただいたので、全ての皆さんが理解されているとか、了解されているとは、とても思っていないが、丁寧な説明を繰り返しながら、今後いろんな形でできることはきっちりやる、将来的に必要なお金というのを丁寧に説明しながら進めていきたいと思っています。とはいえ、これだけ食材費が上がっているの、大村の給食費も実は上がっているのです。それで給食費は改定しました。300円台に上げました。ところが、保護者から徴収する分は、これまで通り中学校280円、小学校が225円ということで、変えずに上がり幅の分は市が全部負担しています。これに今年度が8300万円投入していますから、ある意味、給食費無償化みたいな補助を、やっているとやっているとやっていると、ご理解いただければありがたいなと思っています。それと、就学援助を受けている、家計が厳しいご家庭の給食費は頂戴していませんので、しっかり丁寧に説明をしていきたいなと思っています。そういった形で、ボートレースの財源を、ハード整備、市役所を建て替えたり、環境センターを作ったり、小中学校を建て替えたり、グラウンドを改修したり、こういったことに活用させていただきたい。そうしないと、約20年前ボートが24場中24位、市の赤字、公共施設の利用料が上がったり、町内会長さんの手当が30円下げられたり、こういったことがありました。市の職員の給与が、全体で3年間で4億5000万円給与削減にも手をつ

けたということが昔あったんですけど、そうならないようにしたいなと思っています。ということでボートの財源しっかり教育に充てさせていただきたいと思っています。ちなみにエアコンも、中学校の給食センターも全部ボートのお金です。こういう形で活用させていただいていますので、よろしくお祈りします。

そういったことで今6月定例議会真っ只中ですけども、今日も傍聴にお越しいただきまして、ありがとうございます。大村市の総合教育会議は、傍聴者が今までゼロだったことが多分1回もないんですよ。記録を更新いただきましてありがとうございます。それだけ関心が高いということで、今ちょうど議会があつていますが、議会でも毎回議員さんから一般質問があつて、教育長をはじめ政策監、教育次長と答弁させていただいています。そんな中でもちょっとショッキングだったのが、不登校の数が先般、教育委員会の答弁の中であつて、昨年度の倍です。それで、総合教育会議の中でも1回、NPO法人 school の代表の内海さんと呼んで、お話をみんなでシェアしようということで集まってもらいましたが、あのときに内海さんが、今後このまま黙って何も対策しなかったら、5年後には今の倍の数字になっちゃいますよ、という警鐘を鳴らしたいと説明をされたんですよ。それが翌年にこういう状況になったということです。内海さんの投稿にもありましたけど、ここまで来ると、学校が悪いとか、親が悪いとか、本人の無気力がどうのこうのとか、そういう問題じゃないと。社会全体で解決していかないと、なかなか難しいという投稿がありました。まさにおっしゃるとおりだと僕も思っていましたし、とにかく遠藤教育長ともずっとこの不登校をどうしていくかという話をさせていただいています。もっと言うと、小1から義務教育が始まりますけど、小1より前、未就学児のときに、保育園・幼稚園で、なかなか馴染めないとか、もしかすると、発達に遅れがあるとか、親御さんの問題があるとか、小

学校に入る前に早めにケアができれば、少し違いかもしれないので、そこにも力を入れなければいけないというふうに思っていて、0歳から15歳のラインで、どういふふうに対処していけるかということ、プロジェクト的に始めなきゃいけないというふうに思っています。それともう一つは、この前教育長とも話をしていたのですが、本当に学校の現場の先生には一生懸命頑張って、よくやっただけでいいと思っています。僕も本当にそう思います。卒業式や入学式、学校現場に行ったりすると、子どもたちが本当に先生を慕っているということがよくわかります。なので、学校の現場がすべて悪いとも思わないし、学校の現場だけということでは絶対にはないと思います。私47歳ですけど、昔だって学校の先生に問題があったことはいっぱいあったと思いますし、正直あると思います。だから、程度の問題が昔と今を比べてどうのこうのと言っている場合ではなくて、本当にどういふケアが今必要かということ、学校現場として改善すべきところは改善していく。それと、無気力になっているというの、昔と今と多様性でいろんな学びの方法があるから、これもあるのだと思います。そうじゃない、学校が・・・と言う方もいますけど、それだけではなくて本人の問題もあると思うのですよ。そこには当然、家族の問題があって、家族が学校と早めに関わることができれば、少し違ったりするかもしれないし、家庭教育の問題もあると思いますので、これを総合的にやっていかないといけないなと思わされる不登校の数字でした。これを今後の総合教育会議でもう1回、もう1回というか何度でもまたやらせていただきたいなと思っております。そういう課題は課題で解決しなければいけない、真剣に向き合わなければいけないということもありますけれども、一方ですごく活躍している子どもたちもいっぱいいて、今年度は北部九州インターハイということで、たくさん大村市出身の子たちがインターハイ出場を決めました。特に大村市では、男女ソフトボール、ここ

には大村工業高校と、女子は向陽高校が出場を決めましたし、卓球はシーハットであって、ここは男女とも鎮西が優勝したのですが、男子のキャプテンをしている子は大村の子です。女子も大村の子がいるみたいです。あと、大高、城南のボート部とか、みんな活躍してくれていますので、しっかり応援をしていきたいと思っております。加えて、今日の話の中にもありますが、遠藤教育長が、一芸に秀でるということをずっと繰り返していますけど、一芸に秀でるという中で、スポーツ、文化、芸術、お勉強ももちろん大事で、お勉強を頑張った子たちにも支援しようと、今アメリカに留学している子に、返さなくていい奨学金を出しています。これも勉強だけじゃなくてスポーツ、文化、芸術でも出そうということで、その中の芸術でアメリカに行っている子に出しているのですけれども、そういう全国でもなかなかない給付型奨学金の取組を進めております。こういったことを進めている中で、今日は文化芸術ということで、スポーツはさっき言ったように、インターハイなどいっぱいあるのですけど、文化芸術にも力を入れたいということもあって、今キッズプラスとか、合唱団とか、吹奏楽とか、いろいろ取り組んでいます。そこに対して、さらに力を入れていきたいということが1つあります。それともう1つの議題は、ミライへつなぐ学校教育プロジェクトということで制服の統一、それと評価制度の見直し、学校区の見直し。これは竹松、富の原、郡中、桜中がマンモス校になっていることや、福重小学校の建て替えをしていますけど、学校の建て替えというのはすごいインパクトがあるんだなと思って。福重小学校の周りに、めちゃくちゃ家が建ち始めて、大人気スポットになっているんですね。これは1つ気づきで、学校が建替わる、新しくなるというのは、若い保護者の方々、子どもたちにすごくプラスの、まちづくりの変化に影響があるのだなと思われました。そんなことも少しおさらいをして、今の進捗を確認してい

きたいなというふうに思っておりますので、ぜひまた忌憚のないご意見をたくさんいただければと思います。いつも時間がオーバーして足りなくなってしまうので、あまりたくさんは駄目だと言われて、今日はテーマを2つにしましたので、ゆっくりご意見いただければと思いますので、よろしく願いいたします。ちょっと長くなりましたけれども、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

最後にもう1つだけ、今日実は、総合教育会議が終わった後、竹松の自衛隊に行って、新しく来られた水陸機動連隊の方々、隊員さんが750人いらっしゃるの、隊員さんに町内会に入ってくださいねというお願いに行きます。新しく来た人に町内会に入ってもらうことが大事だと思っているのと、今年度、残念ながら町内会の加入率がいよいよ70%を切って69.4%になってしまいました。人口が増えて世帯が増えているので、分母が増えているから、そのまま行けば単純に減ってしまうので、前回は71.8%だったので、しょうがないかと思うのですが、そうも言っていられないので、町内会に入ってくださいというお願いと、数字は正直二の次で、どうでもいいことはないけど置いて、町内会に入ってもらって、地域活動にということ、若い親御さんが思っていたけなかと、さっきの不登校の改善とか、子どもたちのフォローができないと思うのです。だから町内会に入ってくださいということを言に行きたいなと思います。その竹松に行って帰ってきた後は、去年まで大村の中学生で、ソフトボールを頑張って日本一になった子が、佐賀に進学したのですけど、佐賀の学校でインターハイに出るということで、わざわざ佐賀から帰ってきて、市長表敬に来てくれます。これが本当に嬉しくて、たとえば県外に行ったとしても、大村の小・中学校で育って大村で自分たちはお世話になったということ、後からでもこうして来てくれることが本当に嬉しいなと思うし、今日たまたま来てくれる子は、大村で生徒会長まで務めて、私は大村の卒業式に行

けなかったのですが、行った人たちが口を揃えて、「あんな答辞は初めて聞いた」というくらい素晴らしい答辞をやってくれた子です。その子が帰って来て、報告に来てくれます。だから、文化やスポーツや芸術、または勉強で外に出たとしても、こうやって大村で育ったのだと思ってくれる子どもたちが、もっと増えていくよう、さらに力を入れていきたいなと思っていますので引き続きよろしく願いいたします。本日はこうやって、また総合教育会議を開催できまして、本当にありがとうございます。

#### **企画政策部長 山中 さと子**

それでは、次第「3 協議」に移ります。

ここからの進行は、大村市総合教育会議運営要領第3条に従いまして市長が行います。園田市長、お願いいたします。

#### **大村市長 園田 裕史**

それでは協議の1番目ですけれども、ミライへつなぐ学校教育プロジェクトの進捗について、でございます。まず事務局から説明をお願いします。

#### **学校教育課長 堺 邦寿**

それでは学校教育課から、ミライへつなぐ学校教育プロジェクトの進捗について説明いたします。

1つ目は、学校規模の適正化についてです。学校規模の適正化につきましては、大きく3点の柱がございます。1点目は、特別転入学制度の拡充、2点目が、施設一体型の小中学校設置、3点目が校区の見直しでございます。1点目の特別転入学につきましては、現在、黒木小、松原小で導入をしておりますが、この制度を拡充することとしております。これにつきましては、該当の学校におきまして、保護者等にも説明を行っているところで、2点目の施設一体型の小中学校につきましても、教育委員会事務局としての考えを地域の方々への説明を済ませているところです。3点目の校区の見直しにつきましては、該当地域の状況を十分に踏まえて、現在検討を重ねているところです。現在は、検討案の準備を進めているという状況で

す。

2つ目の中学校統一型制服の導入につきましては、最後にさせていただきます。資料1の3つ目、自信を持たせる学習評価についてご報告します。令和4年度に「自信を持たせる学習評価」の在り方ハンドブック vol. 1 を作成しております。このハンドブックをもとに、各学校において学習評価の実践、そして改善の繰り返しを行っているところです。各学校における実践につきましては、年間2回開催しております教務主任研修会の折に持ち寄り、それを市内全校に広げるということを進めています。令和6年度についても、この取組を進めていくこととしております。

では戻りまして、2番目の中学校新制服の導入についてです。中学校統一型制服は、令和6年度から供用を開始しており、市内6校、全中学校の1年生が新制服を身につけて入学式を迎え、現在、学校でもその制服を着用しています。この新制服の供用に伴い、校則の市内統一、見直しを昨年度行っております。それが今お手元にございます、資料2、大村市統一型制服導入に伴う新たな「生徒心得」になります。この生徒心得が、市内統一として現在各学校の校則となっています。校則の見直しにつきましては、昨年度市内の生徒指導部会を中心に協議を行い、このように定めているところです。この新たな「生徒心得」を作成するにあたって、重視してきた5つの事項がございます。1点目は、「生徒心得」に合理的な理由があるか、ということです。信頼される学校にするためには、生徒保護者の理解が必要であり、そのために合理的な説明ができるかを重要視するというのが1点目です。2点目は、教育的目的があるか、ということでございます。これにつきましては、生徒を教育する目的から外れていないかを常に確認することとしております。3点目は、「中学生らしい」という言葉はいつの時代の、誰にとって中学生らしいなのかが、不明確であり、合理的な説明ができないということ、しっかりと認識するという

ことです。

4点目は、これまで問題がなくても、生徒の権利や「生徒心得」に対する生徒・保護者の理解、要望という観点から、絶えず見直しを行うという意識を持つことをあげております。5点目は、多数決だけでは決められず、少数意見も大切にしながら、その後、十分協議を重ねた上で決定していくということです。5つの事項を重視して、今回の「生徒心得」を設定しております。

ここで「生徒心得」のいくつかを紹介します。服装の部分では、まず【アンダーウェア】のところをご覧ください。赤字で示しているところです。色は白・黒・紺・グレー・ベージュの単色・無地のもの（ワンポイント可）とし、シャツから出ないように着用する。また、【靴下】のところは、色は、白・黒・紺・グレーの単色・無地のものとする（ツーポイントまで可）。但し、アンクルソックスは不可とする。【下靴】につきましては、白または黒を基調とした運動靴を使用。但し、白または黒を基調とするとは、白の無地に白ライン、または、黒の無地に黒ラインを意味する。【カバン】については、各中学校の指示に従うものとしております。裏面【頭髪】につきましては、4番をご覧ください。一部だけ極端に伸ばしたり、短くしたりするような特殊な髪形にしてはならない、としており、イラストを参照するようにしています。また、この「生徒心得」につきましては、毎年見直す機会を設け、市内中学校でも確認をしており、それぞれの学校で、その都度検討をしていくこととしております。また、学校単独ということではなくて、校則の見直しが必要な場合につきましては、市内6中学校で、その情報を持ち寄り、検討し運用していきます。資料3をご覧ください。制服の着こなしについて、それぞれ冬服、中間服、夏服、の着こなしをイラストで示しています。このイラストをもとに各中学校において、適正な着こなしがなされるように指導をしているところでございます。担当課からの説明は以上でございます。

## 大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。ちなみに、4・5・6月と3ヶ月弱経過して、何か課題とか問題とか、そういったものが各校、学校現場から何か上がってきていますか。

## 学校教育課長 堺 邦寿

大きなところでの問題というのは届いていないところですが、2年生3年生の子どもたちが、ポロシャツを着たい、という声が、少しあったということ伺っています。

## 大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。2年生3年生も、ポロシャツを夏に、という声があったみたいですが、そこは一応委員会としては、着ている子、着ていない子というのがあるし、今までのものがあるから、それを活用しようというふうに整理をされていると私も聞いています。本当にこれは毎回言いますが、正直最初3年前に遠藤教育長が、学校教育プロジェクトを走らせるということで、全部重たい案件で3つありました。なかなか簡単にはいかないだろうということと、中学校の制服の統一というのは、県内でどこもやっていませんでしたし、そんなにスムーズにはいけないかな、というふうに思っていたのですが、教育委員の皆さんにもご協力いただいて、学校現場、保護者、PTAも一枚岩になって、正直こんなに短期間で実質1・2年ほどで導入まで進められたということは、本当に素晴らしいことだと思います。その結果として、一番の課題であった価格差の問題の解消もできました。今、多様性をと言われている社会の中で、そこに向けた、先駆けた対応であったり、実際にそういったいろんな感情をお持ちの子どもたちも沢山いますから、そこに対する配慮であったり、または令和8年度の休日部活動の地域移行に向けた取組の中で、制服が統一であるがゆえに、地域クラブ活動でも同じ制服ということで対応ができます。いろんな事情で学校を転校したりする場合も、制服が変わらないという利点もあります。

あとは先程の、町内会に入ってほしい、地域を愛してほしい、ということにおいては、愛校心ももちろんですけど、統一した制服は大村市に対する郷土愛を育むというところにもなります。各学校についてのアイデンティティーは、スクールマークで各学校を認識させるなど細部にわたって取組が進められたことは本当に良かったなと思っています。それと私、現場の子どもたちから声をいろいろ聞いたときに、「ツブロックが何で駄目なのですか。」とか、「靴は何でもいいじゃないですか。」とか、これはうちの息子のときも、「靴は何でもいいじゃないか。」と僕が言ったら、「いや、靴は何でもは駄目なんだ。」と言われたので、「メーカーは何でもいいじゃないかって。」親としても思ったのです。それも解消された。靴下の色も、アンダーウェアの色も解消された。今、堺課長からあったように、3ヶ月通して、いいよと言ったら、いいよと言った中でちゃんとルールを守ってくれて、震災刈りと言われる、右が長くて左が短い髪とか、ツブロックのやり過ぎとかは、あっていないと聞いていますので、本当に良かったなと、ちゃんと中学生が自分たちで、どこまでがいいのか、どこまでが許容範囲だろうと考えて守ってくれているのかなと思って、非常に良い取組がスタートしたなと思っています。

そういったことも含めて、学校規模の適正化、中学校新制服の導入、自信をもたせる学習評価ということで、3点進捗を確認したのですが、委員の皆様から、ご意見等ありませんでしょうか。

自信を持たせる学習評価については、一旦整理が終わって、学校現場の先生方がこれを活用していくということになっているので、あとはこれを活用した先生方のスキルアップと、さらにこの中での改善点を、現場で進めていくということなので、あまりここで議論するようなことでもないのかもしれませんが、まず1個ずつ、学校規模の適正化ということですが、ちなみに教育行政とは別として私から言えるのは、竹松小学校が非常

にマンモス校です。郡中学校もマンモス校です。富小はだいぶ落ち着いてきましたけど、桜中もマンモス校です。この状況が今ある中で、小規模校については、黒木、松原は特別転入学制度が導入されています。もう1校の小規模校の東大村小学校は、議会で遠藤教育長から発表も終わって説明していますが、来年、令和7年4月から、特別転入学を東大村もできないかなど。山手なので自然とか、いろんな東大村の特徴を生かした、特殊性のある特別転入学ができないかと検討しています。小規模の解消というのは、そういった特別転入学とか、ICTを活用したということで進んで、大規模については、竹小、郡中、富小、桜中を今から解消していくという中で、周辺事情としては福重小学校が増えてきています。非常にニーズが高くなっています。これは竹小のニーズですね。こういった状況があるので、そこをどう考えていくかということと、ただその中で校区を見直していくということを慎重にやっていかないといけないと思いますけれども、それだけでは今後、新幹線の駅前の道が、郡中学校まで抜けましたよね。小路口とか、あの周りにまだ家がこれから建つと、将来的に富の原とかみたいに小路口、鬼橋に開発が進むとなると、また竹松小学校がマンモス校になるので、そういう将来的なものを見ながら解消を図っていかなければいけないと思っております。中嶋委員、お願いします。

#### **教育委員 中嶋 剛**

まず規模の適正化ということで、いわゆる統廃合は行わないということで、遠藤教育長もおっしゃいましたね。それはずっと堅持していくということであれば、黒木とか松原は一つの特色というのがありますね。今度新たに、東大村に特色を設ける。何を特色としてやっていくのか。これも説明がないですけれども、その点を私たちにもお聞かせ願いたいと思います。

#### **大村市長 園田 裕史**

今の時点で教育委員会からお答えできるところ

をお願いします。

#### **学校教育課長 堺 邦寿**

東大村小学校におきましては、これまで長くお茶摘みの体験を通じた、地域産業についての学習をしております。それとあわせて、その他の体験活動も現在、学校として考えています。体験活動を中心にしながら、進めていく予定です。また、今後も学校と検討しながら進めて参ります。

#### **教育委員 中嶋 剛**

竹松小学校の校長と話す機会が結構あるのですが、今、竹松小がちょうど、1が4つ並ぶのですね。1111名で、いわゆる超マンモス校。何か不都合な点はあるね、と聞くと、校長としては、子どもたちについては、そうありません。ただ、教員の評価とか何とかを校長がしなければいけません。そうした場合に、ものすごい数の教員の分をしなきゃいけない。これが大変ですと、そういうことをおっしゃった。なるほどねと思いました。統廃合をするとなれば、もう一校学校を設ければ、富小と竹小を分けて、新しい学校が作られればいいのですけども、そういう形も今のところは考えられていないと。当然、予算措置がまた非常に問題になってくるだろう、土地もそうですし、いろいろあるだろうと思って、じゃあ現状のままでいかなければいけないなということですよ。だから、副校長というのを置いていることは非常にいいなと。校長がだいぶ助かっています。今、県教委のおかげで、大村市内も、副校長を小学校4名、中学校4名の、8名の副校長を置いていると。これが非常に私にはいいなと思います。私たちの頃は当然、そんな副校長なんておりませんでした。校長が随分と助かっている。職員も、そして、教頭も助かっている。こういうことで、県教委はよく見てくれたなあと。本当に良かったと思っております。

もう1つ質問は、同一施設を小中学校で使うと。萱小と萱中が、同じ施設を使うというこの問題については、どのような進捗でしょうか。

## 学校教育課長 堺 邦寿

施設一体型の小中学校の設置につきましては、萱瀬小・中学校において、考えています。令和4年度中に萱瀬小・中学校の学校支援会議、地域の方々にご説明をしました。現在、小・中学校の施設一体型について、市教委の考えを地域の方々にお伝えし、そのお返事を今後いただかないといけないという状況です。地域の方々のご理解が得られて、建設にかかるのは、まだ随分後の話にはなりますが、まずは地域のご意向をしっかりと伺って参りたいと思っております。

## 教育委員 中嶋 剛

そうすると結局、青写真というか、いつ頃までに、賛成が多ければやりたい、という目処はまだないわけですね。

## 大村市長 園田 裕史

一応さっき、学校の建替えを計画的にしていけますよという、粗々というか、ちゃんと公にしている計画があって、例えば今進んでいるもので、福重を建て替えたり、放虎原を長寿命化したりとか、令和5年度から始まって、今年度6年度は、三城を建て替えたり、玖島中、旭ヶ丘、郡中の体育館とかがあります。来年度が中央小とかもありますので、その年度にどこを、という計画上は、萱瀬の小中のその先もあるのですが、自分としては、教育長も、施設一体型というのはすごく力を入れられているので、地域との確認次第ですが、早められるものは早めたいと思っております。それがいつ頃かというのは、まだ今から地域の同意を得ながら、中学校と小学校と2ヶ所ありますから、どちらをどうか、整理をしていかないといけないと思っておりますね。ただ、大村で初めてそういう取組をしますし、そこに意味を持たせて、一体型ということになるので、とても良いプロジェクトだと思います。私としても、教育長がこういう形でやりたいというのを、財政的にも全面的にお手伝いできるように、考えたいと思っております。

## 教育委員 中嶋 剛

ぜひ前向きに検討していただければと思います。ところが、俗に言う小中一貫校ではないわけですよ。施設を小学校と中学校が使うのだと。同じところでやるということですから、非常に新しい試みです。私は、本当に大村の1つのまた目玉になって良いなあと思っております。

## 教育委員 船橋 修一

今の中嶋委員に準じるのですが、業者として、長崎県、佐賀県、福岡県の学校関係の新築に関わっているわけですが、最近の流行りというか、施設を一体化する。私立の方から始まっているのですが、IT教室ですよ。おそらく今度の福重小もそうなると思いますがIT教室になってくると、施設もそうですし、設備に相当お金がかかりますよね。そこをやっぱり共用するというので、施設の統一性を図るということ、この合理性が出てくるのかなと。それと小学校から始まる英語教育だとか、こういったところでの教員の融通ですよ。今後ますます複雑化して、科目が増えてきて、ということになってくると、施設の統一化、小中の一貫化、中高の一貫化というのが加速していくのではないかなという気がしています。まだ数字がよく把握できてないのですけれども、どうしても中高一貫ということになってくると、大村から出て行ってしまうという子が増えますよね。来る子はほとんどいないけど、出て行ってしまう人もいます。今、子どもは増えている段階では、特に長崎市内はもう、統廃合しなければならないという段階になってきますので、全く考え方を変えてきていますね。ですから、学校の設備そのものが相当変わってくるのかな、ということを考えております。追々こういったことがある程度具体化して、資料としてお出しできる段階になってくると、ご協力してどんどん出していきたいと思っております。

## 大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。以前、教職員の働き方改革について、船橋委員から貴重な意見をいただ

いて、やっぱり学校の現場の先生方が余裕を持って子どもたちに対応するために、IT、ICTで改善できるものは改善をしたい。そこに財政的な措置が必要な場合は、積極的にやりたいと私も思っていますので、そこは江浪政策監に私もお願いして、とにかく総洗い出しをやって欲しいと、現場から何が改善してもらえたらいいのかとか、変えられるものは変えたいと思っていますので。当然建て替えるときや、改修するときがいいタイミングでもあるので、そういうふうにしていきたくないと思います。例えば長崎とか佐世保とか、私が言うことじゃないですけど、統廃合するのであれば統廃合したことを、ピンチをチャンスと捉えて、統廃合になって寂しいけど、何か特色のある小中学校になるのだよ、みたいに打ち出せば、ある意味人気の学校になるかもしれないですよ。

#### 教育委員 朝長 昭光

ちょっと話は変わるかもしれませんが、私は開業する前は長崎の横尾にいました。うちの息子たちの時にはマンモス校と言っていました。今はオールタウンですよ。子どもがほとんどいなくなるし、しかも横尾は、滑石からちょっと離れているので、どうしようもない感じで、学校がなくなったら遠くまで歩いて行かないといけないという問題が起こるのです。大村も杭出津のあたりは、以前は私の同級生は杭出津の住宅だけで50人ぐらいいて多かったですけれども、今はもうパラパラです。子ども会も成り立たないぐらいに。今、富の原や竹松からずっと広がっているのは、新しい家が出てきて、親が住む環境が非常に子どもの環境にもいいと。そういう面で増えているのですが、逆に減っているところは減っていくので、まちづくりの将来的なことも考えて、減っているところをいかに活性化していくかというのも大切なのではないでしょうか。例えば三城小学校はガタッと減ってきたけど、最近はずいぶん増えてきて、どうにかなってきていると思っているんですよ。だから行政のまちづくりは

大変でしょうけど、長い目で見て、増えているところはいいけれども、逆に減っていくところも出てくるので、そこに、いかにして親たちが住んで、近くの学校にやらせたいと思うようになるのか。学校が綺麗になるということも1つなのでしょうけれども、そういった対策、空き家が増えてきているので、空き家対策、アパートなんかでも、綺麗なアパートがあればみんな入って来るのですけどね。そういったことも含めて、市の方で一生懸命頑張ってもらえたらいいのではないかと思います。

#### 大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。そこは、特に教育委員会、教育次長の方になると思うのですが、学校をやっている中で、当然、木場スマートインターチェンジができたことによって、旭が丘小学校区の周辺の人が増えて、非常にマンモスになってきています。今度新幹線の駅前に191室のマンションができますので、あそこが町名的には植松3丁目になるので、実は西小じゃなくて、中央小になります。中央小が今減ってきていて、どうしようかと言っていたときに、中央小が増える材料にはなっている。じゃあ西小のエリアはどうかという時に、今度市としては、さっき言った新幹線の道向かいの、例えばうえだ皮ふ科さんの裏手のあたりを、郡川沿いに20ヘクタールぐらい開発をしようとして今計画をして、道を通そうとしていますので、当然そういうところが増えてくると、宅地にせずとも、また家は建ってくるだろうということが予想されます。じゃあそれが西小なのか竹小なのか、または萱瀬なのか、そんなことも考えて、我々は我々でまちづくりをしていく中で、校区がどこになっていくかということもちゃんと考えていかないといけない。黒丸はもっと、沖田のところからさらに北部にまだまだ家が建つ余裕がありますから、そこをどう見ていくのかとか、今朝長委員がおっしゃったように、そういう視点も持って、今まさにこの三城は減り続けてた

のですけど、駅前にマンションが整備されたこと  
によって、一気に児童数が増えてきたりしていま  
すので、まちづくりと一体的に考えなければいけ  
ないなと思っています。

宮本委員、竹小保護者として率直に、竹松小学  
校のマンモス化や、学校規模の適正化について、  
思うところがあれば、何なりと言ってください。

#### 教育委員 宮本 真由美

小学校に子どもが入るときに、ここの校区は竹  
松小だから、ここの校区は萱瀬小になるから、こ  
この校区は松原小になるからっていう前提で、私  
たちの周りはみんなそうやって、まず家を建てま  
す。私の子は竹松小に入って、すごく人数が多く  
て、これが分散すればいいのにとあって、松原小  
が少ない、福重小が少ない、それで例えば竹松小  
が分散すればいいのにとあつたときに、校区とい  
うのを親たちが決めることはできないのかなって、  
ちょっと不思議に思つたことがあります。小学校  
に入るときに、黒丸に住んでいるから、あなたは  
竹松小学校ですよっていうふうに前々からお知ら  
せのカードをいただくのですけども、自分たちで、  
例えば子どもの性質とか性格があつて、ちょっと  
多いところが苦手だから幼稚園は少数のところ  
がいいって、松原幼稚園に通つていて、突然マン  
モスの竹松小学校に行つて、わあ、こんなに人数  
がいるって、子どもがもう行きたくないって言う  
方も何人かいらつちゃつて、だから今まで通り  
校区決めつていうのはもう、市の方から決ま  
つていふのかな、それとも、これからはそう  
だけけど、人も増えて、福重も増えて、小学  
校も新しくなれば、私たちが綺麗なところ  
にやりたいっていうのもあるんですけど、  
その校区決めつていうのを、こちらの方  
で選択とかもできるような時代が来るの  
かなあと思つたりもします。とにかく子  
どもが多いのは、多いメリットもあるし、  
やっぱりデメリットもあるんですけども、  
少ないのにもメリットやデメリットがあ  
るし、そこで今、いろんな選択があ  
つて、世の中になつて、校区とかも

たらそういうふうを選択できるような世の中  
になるのかなと思います。

#### 大村市長 園田 裕史

非常に素晴らしいご意見をありがとうございます。  
1つは、なぜそうなつていふかということの  
前提としては、校区というのは、いわゆる町内会  
というか自分がどこの町内に住んでいるかとい  
うことが、イコール校区になるので、竹小と富小  
なんてわかりやすいと思うのですけど、竹松本町  
西に住んでいる子が、いくら富小が近くても竹  
小です。富の原2丁目に住んでいる子は、場所  
によっては竹小が近くても富小ですよ。だから、  
もう家の前の道で、竹松本町西と富の原1丁  
目に分かれていたのが、今回これで変わるこ  
とになつて、これが言えば当たり前のよう  
に今までされていふということですよ。良  
くも悪くもです。僕はいいと思つたこと  
が1つあつて、それは冒頭の町内会の話  
じゃないですけど、自分は大川田だつた  
ので、大川田町という町内会、子ども会、  
アイデンティティがあつて、同級生がそこ  
にいて、いいところも沢山あると思つ  
ます。ただ一方で、自分も何気なく  
ですけど、その当時、30年前もの  
すごく新しかった桜が原中学校の方が、  
大川田から近いんですよ。なんで自  
転車で郡中まで行かないといけ  
ないと思つた。だから、竹松本町西と  
かなつてくると、さらにそう思  
つますよね。だから、単純にそう  
だと思つます。もう今はそれが1  
周回つて、こういうふうになつ  
ていふところもあるのだつたら、  
今宮本委員が言われるように、  
住んでいるところの町内、地区  
で一気に線を引くのではなくて、  
親御さんや子どもさんの多様  
性を持たせてもいいでしょうし、  
黒丸から私は三浦に行きたい  
とか、あまりないかもしれない  
けど、じゃあどこまでそれを認  
めるのかつてなるかもしれない  
ですよ。竹小にするか、福重か、  
松原か、お子様の特徴によつて  
は、小規模がいいなと思つた子  
もいれば、もしかしたら松原  
の子が、竹小がいいと

いう子もいるかもしれないし、それが非常にいいお考えだなと。福重小学校がせっかく新しくなることも、黒丸、沖田に家が広がってきていることも含めてですけど、親御さんの目線からそういうご意見が出るというのは有り難いです。

**教育委員 宮本 真由美**

うちの子ももう小学校6年生で、終わりではあるのですが、やはりこの6年間すごく教育っていうのが変わってきたなって。自分のときと比べるよりも、この6年間でパソコンの導入になった、担任の先生の関わり方も非常に変わってきた、昔よく書いていた連絡帳もなくなってきた。この6年間に本当いろんなことが変わったというのがあったので、まず学校に行くっていう、その一番最初の扉というか、自分はここの小学校に行くという、そこの選択肢というか、窓っていうのが、またそこで学校に行きたい、行きたくない、そこは関係ないのかもしれないのですが、私はそこもあるのかなあと個人的に思います。

**大村市長 園田 裕史**

不登校と直接イコールなところもあるかもしれないし、ないかもしれませんが、やっぱり学校の規模とか、そこで馴染みやすい、馴染みにくいというのはあると思うので、そこを丁寧に、学校の規模から、しかも入学前にそれが対処できれば非常にいいと思います。せっかく規模の適正化ということを考える中で、そこら辺、1つの視点として取り組めたらいいなと思います。教育長、何かありますか。

**教育長 遠藤 雅己**

私はもう市長と考え方が一致していますので、ほとんど言うことないです。ただ、宮本委員が言われたように、高校の方も今、行ける学校から行きたい学校、成績で行ける学校から、今は自分が行きたい学校に行きたいということで、かなり格差がついていますよね。もう定員は0.5を割っているところもあるし。

それと、今はこういう状態になって、義務教育

は果たしてこれでいいのかですね。今日も県議会の発言を見ていたら、やっぱり親の働き方も様々になってきて、土曜・日曜が休みじゃないわけですよ。その中で子どもたちは、うちは今日家にお父さんがいるのに学校行かないといけないのか、となったときに、親が休業を取っているときに、一緒に休めるような制度も必要になってくるのではないかなと思います。実はこういうのが子ども会とか、町内会に繋がってくるのではないかなと思っているんですよ。やっぱり大村ならではの教育を市長とまた、教育委員会の方で話していきたいと思っております。走りだけ今回は伝えておきます。

**大村市長 園田 裕史**

ありがとうございます。

**教育委員 朝長 昭光**

1つは先程の話の続きなのですが、三浦地区は、大村の福祉を受けるのが非常に良いからと言って、生活圏は諫早だけでも、住むのは大村に住んだ方が福祉を受けられるということで、あの辺に諫早から来たりとかして、こっちにはあまり用事はないと。福祉を受けるためにという人の話を結構聞きますので、そのあたりから三浦地区に人を増やすために、もうちょっとうまくなれば、逆に大村側に呼び戻せる方法もあるかもしれないですよ。

それと私の質問は、特別転入ということは非常に面白くて、先程聞いたら東大村の設備とか、畜産とか面白いと思うのですが、通学はみんなどうするのですか。親は大変でしょう。だから、親が駄目ならば結局は諦めるってなるので、何かその対策もあつた方が行きやすくなる。今、黒木とか松原がどうなってるか知りませんが、これについて質問したいと思います。

**大村市長 園田 裕史**

1つは、例えば黒木だったら登下校、朝夕の時間帯でバスが通っていますので、バスに乗って行かれている子が多いみたいです。そこを市として

は補助を出しています。松原もバスがあるので、乗り合いタクシーというのを松原は走らせていたりしているので、それを使って行っている子いるのかなと思います。今回、東大村ということになると、たぶん東大村ってバスが通っていないんですよ。だから、今大村市として、バス交通を見直すとか、乗り合いタクシーを、ということを段階的に拡大してきていたりするので、そのことと合わせて考えていかないといけないというのと、あとはわりと保護者さんが共働き世帯で、送ったりというケースもあっているんですかね。そういう形ですね。公共交通で行く場合は、補助をさせてもらっていますので、東大村の場合は、公共交通が脆弱なところもあるので、しっかり考えていきたいと思います。今、黒木と松原においては、その問題で検討が必要だという状況はないですね。

#### **教育委員 中嶋 剛**

今、確かに宮本委員がおっしゃるように、自由に選べるというときが来るかもわからない。しかし私自身は、あまりそれは望みません。基本はやっぱり決められた校区の学校に行くと。しかしやっぱり、あの子がいるから私は同じ学校に行きたくないとか、それで結局不登校に陥る子いるかもわかりません。だからそういう問題が多々ある子については、特別に認めるという形の方が学校としても、今度は何人入ってくるっていう、きちっとした計画が立てられます。自由選択にすると、とてもじゃないけど、今度は何名になるんだろうか、という心配までしなければいけない。そういう事態は出てきますよね。だから私自身はまだ、その自由選択は時期尚早かなと思います。

#### **大村市長 園田 裕史**

ありがとうございます。郡中学校区とか、竹小のマンモスということについて、色々ご意見をいただきましたけど、その中でいろんな考え方があるといって、今の子ども達の、不登校じゃないけど幅広い課題を考えていく中で、さっき中嶋先生が言われたように、どこまで、どういうふうに

対応を細かくできるかということと、大村市の場合は、今度4月に東大村が特別転入になれば、東大村、黒木、松原という形の選択制を持たせるということもあるので、相対的に考えていきたいなと思います。ただ、先ほどの朝長委員の話でもそうですが、やっぱりまちづくり、人口密集地ということが1つのイコールとして、学校規模に大きく関わっていくということを考えたときに、校区の見直しを、どこで線を引き直すことができるのかというのは、どちらかという教育現場というより町内会とかが大きく関わっていくので、慎重に進めていきたいなと思います。

制服については特にはないですかね。宮本委員、何かありますか。今中学生のお子さんがいらっしゃるのですか。

#### **教育委員 宮本 真由美**

いないです。ただこの制服で来ているうちの塾の子もいますけど、誰一人文句とかは言っていません。男の子が学校に行きやすくなったと言っていました。

#### **大村市長 園田 裕史**

私も先日髪を切りに行ったら、とにかく中学生が笑顔で嬉しそうにツーブロックにしてくれと言おうそうで、ずっとツーブロックに切っていると美容師さんが言われてました。そうですか、やりすぎたり変にしてないですか、と言ったら、やっぱりいいと言ったら本人たちも、やり過ぎないで下さいねって気にして、ちゃんと守ってやっていますよ、ということでした。もし右が長かったり左が短かったりする髪形にしてくれと言われたら、それは駄目と言って下さい、と言っています。あと、ポニーテールもOKになりました。そういう意味では自分たちで意識してくれて、これについてはいい感じで今進んでいるのかなと思います。

今日はもう1つ協議事項というか、確認がありまして、文化芸術の振興策の現状とこれからについて、というところで共有していきたいと。文化芸術、スポーツなど、一芸に秀でるに力を入れる

と言っているから、今こういうことでやっていますということ、文化振興課から説明をお願いいたします。

### 文化振興課長 大野 安生

それでは資料4に沿ってご説明します。

まず1ページの1.大村市文化・スポーツ振興財団自主事業についてです。財団が行う芸術文化に係る自主事業は、指定管理料に含む自主事業予算713万円。これはスポーツ事業経費等も含んでおります。それを元手に実施されますけれども、その下の(1)令和5年度事業実績を見ていただきますと、その表の中の一番下の行に、同支出:21,651,305円とあります。これが、財団が実施している芸術文化事業12件に係る事業費です。ただし、チケット販売に携わるだけの事業、例えばワールド・ドリームサーカスですとか、NOCEの定演など共催事業6件については、表には示しておりません。来場者数は5,545人となっております。事業費は全体で2,100万円を超えておまして、指定管理料における自主事業予算より大幅に大きい額となっております。これは表中の※を付した、当課からの委託事業である2件のOMURAブラプロジェクト計800万円や、入場料収入に加え、重要な点は、助成金収入の獲得が大きいということで、財団ならではの積極的な事業展開がなされております。下段の方は、令和6年度の事業計画11件で、令和5年度と同じように、総事業費は23,484,500円の計画となっております。先程と同じで、go!go!vanillas(ゴーゴーバナラズ)コンサートと、合計は省かせていただいております。1番の説明は以上ですけれども、そのあともずっと続けてよろしいでしょうか。

それでは2ページの上の段、2.令和6年度文化振興課が行う芸術・音楽に係る事業及び予算についてです。左列に、文化活動振興事業、市民ギャラリー運営事業等6件を掲げています。上の方から見ていきますと、文化活動振興事業は、文化基金を活用した補助事業で、市民の文化活動や小中

学生の遠征費補助を行っております。市民ギャラリー運営事業は、同施設を運営する運営協議会に運営費を補助しています。子ども芸術文化活動事業は、NOCEを活用した、小学校5年生を対象とした生の音楽鑑賞事業です。音楽があふれるまちづくり事業は、NOCE及び文化スポーツ振興財団に対し、市民が気軽にクラシックとブラスバンド音楽に接する機会をつくる事業です。OMURAキッズブラスは、この事業の中で文化スポーツ振興財団と藤重音楽指導官によって誕生しました。他に文化スポーツ振興財団が行う鉄道コンサート事業があります。国民文化祭開催事業は、令和7年9月14日から11月30日まで、第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭合わせたところの、ながさきピース文化祭2025の開催に向けて、本市実行委員会の開催経費の他、また、その前年となります今年度はプレ事業として、本市初となる長崎県美術展覧会の移動展を11月30日から12月3日までコミセンで実施する経費を盛り込んでいます。その下が事務費でして、市展に付随するものとなっております。次に下段3.まちかど市民ギャラリーの運営と経費についてです。ギャラリーの開設は平成14年5月です。緊急雇用対策事業として、国の補助金を活用して空き店舗対策の効果も合わせてまして、3年間の市の事業として始まりました。ギャラリーへの改装は、当時商工費で実施され、その後、当課が事業を行うことになりました。3年を経まして、事業を終了する予定でしたが、市民の要望から民間で運営協議会を組織し、民間が行う事業に対して市から補助を行うということで、ギャラリーは存続することになりました。中央商店会会長を会長として、副会長、常任理事、理事、監事、事務局員で組織されております。令和5年度決算で、355万4千円の運営費に対し、300万円という大変高い率の補助を行っております。使用料収入が55万3千円。主な支出である店舗借り上げ料は132万円、賃金122万4千円です。市と運営協議会との間で、当初から

の確認し合っている事項としまして、修繕費等は使用料収入を積み立てて基金化して賄うこと。それから、協議会の方が、美術館ができるまでを合言葉に頑張って運営されており、その運営費については、市の補助金と使用料収入をもって充てるというふうに規約でなっております。市ではこれに応えて、毎年変わらず補助金を交付しております。これまではスポットライトの導入、エアコンの故障や壁紙の張り替え、明り取り窓の封鎖、展示台の修繕、スポットライト等のLED化など、財政的に厳しい中でも、創意工夫や関係者の協力によって、少しずつながら自力で目に見える改良を加えていることに、会の皆さんは充実感、満足感を持って事に当たっております。現時点で修繕を要するなど、困っている点はないと聞いております。ただ、協議会による運営となって年数が経ち、設置当初の意識が薄れてきているようにも私は感じておりましたので、5月にあった協議会総会に私もお邪魔しまして、そのあたりのことも含め、改めてお話したところ、常任理事の中から、減少する利用者、使用料への対策など、自分たちで改善・改革が必要だとの前向きな意見をお聞きし、一定の理解を得られたと感じております。

次に3ページ、4.市長表敬時の激励費についてです。九州大会・全国大会に出場する者が、市長を表敬訪問した際に、出場を激励する意味で現金を差し上げるものです。現在の支給基準は、スポーツを参考として比較しております。スポーツが先行して始まったものでしたので、それと他市町の情報をもとに参考にして、文化についても設定しました。そのうち(1)の対象大会の下線部※のところですが、現地へ赴かなくてもよいもの、つまり優劣の競い方が、絵画や書など作品の出品方式のもの、それから、特定流派、茶道・華道などの特例流派主催のもの。それと、応募者全員が参加できるもの、つまり勝ち抜き制ではないものです。対象者は、1つは市内住所、市内小中学校、市内活動拠点を置く団体、もう1つは本市

出身の市外小中高に通う者です。それから、この会議に入る前に判明したこととしまして、スポーツでは、成績優秀の事後の表敬訪問には、お祝い金と名前を変えて差し上げているとのことでしたが、文化の場合は、事前事後であっても激励費として差し上げておりますので、その点は実質のところの差はございません。しかしながら先ほど申し上げた、芸術文化の下線部の1番目、現地へ赴かなくても参加できる作品出品方式。これは他県、他市町を見ても除外しておりましたので、それに倣ったものですが、そのジャンルで頑張っている方は、その限りにおいて激励を差し上げる機会がないという現状でもあります。ですがお祝い金の概念は、赴かなくても、というこの場合に対しては馴染めるのではないかと思いますので、今後は美術や書を想定とした、現地へ赴かなくても参加できる場合を追加しようと考えておりますが、いかがでしょうか。皆さんのご意見を伺いたいと思います。(2)、(3)は支給額と実績です。支給額は、文化・スポーツは同額となっております。実績は、件数に大きな差がございます。

最後に4ページ、5.文化活動の遠征費についてです。上の段は(1)遠征費補助の要件及び助成の表です。これもスポーツの遠征費が先行していたので、その後文化の、特に中学校吹奏楽部を取り上げる意図から、スポーツを参考に文化が後追したものとなります。さらに昨年度、スポーツの中体連主催大会に対する補助のあり方に合わせるため、中文連の下位にある吹奏楽連盟の主催大会、つまり吹奏楽コンクール、マーチングコンテスト、アンサンブルコンテスト、これらが吹奏楽部の最も中心となる大会ですが、従来、補助率2分の1としてあったものを、中文連主催大会同等の扱いに格上げして、宿泊金額と限度額の範囲内であれば、実質全額補助となる改正を行って、さらに人数制限50人までを撤廃するなど、部活動に係る保護者負担を大幅に軽減するようにしました。国際大会については設定しておりません。(2)は予算

及び実績です。以上で説明を終わります。

#### 大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。協議といますか、今芸術文化にも力を入れようということで、特に2年ほど前から音楽があふれるまちづくり事業ということで、藤重先生にも音楽指導官として、大村に1つの立場をとって関わっていただいていることから、特にキッズプラスであったり、中学校の吹奏楽部の指導であったり、いろいろ関わっていただいています。そういったきっかけを作って、子どもたちのみならず、大人もみんな音楽に触れる、文化に触れるというところに力を入れたいと思います。今、大野課長からありましたけど、シーハットの自主事業とかについては、1つは長岡館長がいらっしゃって、幅広い自主事業を今やっていただいて、特に先般ゴールデンウィークに、郡中学校に go!go!vanillas (ゴーゴバナニラズ) のセイヤ君という卒業生が来て、母校を訪問してドラムを叩いてくれましたけど、彼らは今度、武道館も2日間、大阪城ホールも2日間、本当に売れっ子の1つのアーティストが大村市から誕生してるということで、私も当日行きましたけど、会場にも終わった後にも、当時の小学校の担任の先生が来たり、校長先生が来たり、大村工業の先生が来たり、近所の子が来たりということで、彼の人柄もあったんでしょけど、本当に竹小・郡中の誇りだ、という形で非常にいい取組だったなと思います。こういったことを長岡館長を中心に、幅広く自主事業としてやっていただいているので、市としても、幅がもっと増えるように進めていきたいなと思っています。

まちかど市民ギャラリーは私も時々行くんですけど、今大野課長から、総会に出てまた当初の目的を再確認してきましたということがありまして、もちろん自分たちで自活して、役所が入りすぎると面白くないし、制限をかけ過ぎてしまうから、それはよくないので自由にやってくださいというのが一番いいと思うんですね。ただ私も行くんで

すけど、壁紙が剥がれたり、生け花を置く台がボロボロだったりするので、それについては来年度僕らがてこ入れしようか、とは言っていたんですけど、そこら辺を確認して持続的に使っていただけるようにお手伝いできる場所はしようかなと。そうしないと、大村市は美術館がないので、とよく言われるんですけど、ただ、ぜひ皆さんも機会があったら立ち寄っていただきたいです。市民の皆さんが自分たちの作品を展示して、来てもらってという会をするというのは、ものすごく敷居が低くて、よく使っていただいていると思います。なので、もう少し充実できるものだったら充実をしようかなあとと思っています。

#### 文化振興課長 大野 安生

先ほどご指摘があった壁紙、展示台、全て昨年度の事業内で修繕して、今はもう満足いくようになっていくということですので、今現在のところ、全てクリアしてるということで、昨日も現場を見てきました。

#### 大村市長 園田 裕史

せっかくしようかなと思ったのに、よかったですかね。私もまた確認してきます。ありがとうございます。

それと4番と5番は、私が市民の方から、市長はスポーツばかりいつも応援して、文化も応援くださいと怒られまして、すみませんと言って、早急に取り組みますということで、これも新しく教育長と大野課長に作っていただいて、文化で頑張っている子たちにも、激励費と遠征費を出すと。もう本当に申し訳ない、特に大中の吹奏楽とか九州大会にしょっちゅう行っていたのに、吹奏楽部には遠征費の補助ができていなかったんですよ。それで申し訳ないなと思って、昨年10月から、郡中が九州大会に行くときに間に合うように改正して出しました。九州大会だから、熊本ぐらいだからそんなにお金ということではなかったんですけど、おかげさまで文化についても、スポーツと同じように遠征費や激励費を出すようにしまし

た。ところが、先ほど課長からあったように、絵とか、将棋とか囲碁とか、勝ち上がりじゃなくても参加できるものがあるんですね。スポーツも勝ち上がりじゃないものには出していないんですよ。さっき大野課長からあった、現地へ赴かなくても参加できたものでも、大会が勝ち上がりだったら出そうじゃないか、出していいですかという話ですか。

#### 文化振興課長 大野 安生

先ほど市長がおっしゃったのは、絵画とか囲碁将棋ですが、囲碁将棋は勝ち上がりなので、全く問題ないです。ただ、書とか絵画とか作品だけが行って、向こうで審査されて上がっていくもの、他県他市町では、それは対象外になっているんです。ですけど、その分野で頑張る人はいつまで経ってももらえないという現状もあるということになるので、そこを改善するのであれば、絵画や書、現地へ赴かなくても上がっていくものについても拾ってはいかがでしょうか、という提案をいたしました。

#### 大村市長 園田 裕史

ぜひ拾いたいと思います。この間、富の原小学校の女の子が、歯の絵を書いて日本一になったんですよ。ところが彼女も絵だけ行っているから、この前来てくれたとき何もプレゼントできなかったから、石井筆子の本をプレゼントしたんですけど、申し訳なかったなと思ったんです。あとは、諫早高校に通う女の子が、油絵で猫を描いて、九州チャンピオンになったんですけど、これも絵だけ行っているんですね。だからお祝いが出せなかったんですよ。絵だけ行っても審査で勝ち上がっているから、勝ち上がりとして出したと思っていて、よろしいですか。

#### 教育委員 中嶋 剛

ちょっと質問いいですか。市長に表敬訪問をするときの金額ですね、或いは次の最終ページの、遠征費の補助金。これは他市を参考にして決めた、これはよくわかりましたが、この金額、或いは

補助額というのは、他市と比べてどうなんですか。

#### 大村市長 園田 裕史

私からお答えさせていただきますが、自信を持って、他市と比べて充実していると言えると思います。といいますのが、これはスポーツに合わせてもらっているから、スポーツのことで言いますが、大村市以外の市町は、例えば、九州大会に行ったら5万円、全国大会に行ったら10万円をすぐその場で先に渡すんですよ。だから、早くもらえるから他の市町がいいと言われる方もいるのですが、大村市の場合は精算払いです。だからもし仮に九州大会に行くと、6万5千円かかった場合、領収書を出してもらって6万5千円きっちり払います。全国大会に行くと11万2千円かかったら、11万2千円、領収書をもとってきっちり払うのですよね。だから現金が親御さんの手元に行くのは後にはなるけど、他市町でよくやっている、九州大会5万、全国10万とか、もうその時点でやるお金で終わりなんです。我々は、かかった費用を全額精算しているので、行くことに関しては、旅費・宿泊費というものを全部、応援させていただくという立て付けになっていますね。

#### 文化振興課長 大野 安生

確かに県内調べますと、おそらく大村市が一番高額に差し上げていますし、中文連関係で、全額補助というふうには持っていってのは、まず大村市しかありませんし、なかなか追随できるものではないと思います。その分支出が、今まで2分の1としていたものが2倍になってきますので、元手の文化基金の方が心配になります。

#### 大村市長 園田 裕史

ここについては、スポーツ、文化、芸術を応援するとこれだけ言っているのだから、絶対抜けがあったら駄目だと思って、僕も散々確認しました。それで一定網羅できていると思います。今回この総合教育会議の中で、絵画とか書とか、勝ち上がりを取られるものが、いいじゃないかと応援いた

だいているので、しっかりそこをまた応援したい  
と思います。それと加えて、例えば野球の大会で  
県大会を勝ち上がって、1位は全国大会、2位も全  
国大会、3位は九州大会という場合があります。  
ところが、これは昔野球の大会であった事例なの  
ですが、1位は神宮球場でします。2位は高野山で  
全国大会があります。3位は北九州市で九州大会  
があります。ただ、これがおかしな話で、1位と3  
位は旅費を出していました。なぜかという、野  
球連盟が主催しているからです。でも2位の大会  
は高野山で、お寺が主催しているからここには出  
せないという制度だったのです。そしたら、3位  
の子たちには出るのに2位には出ない。だったら  
2位にならない方がよかったと子どもたちが言っ  
ていました。それはそうだろう、おかしな話だか  
ら、それは駄目だと言って、ちゃんと勝ち上がり  
で上へ行ったら、1位・2位・3位に出すようにと  
すぐに変えました。

細かい話ですけど、そのぐらいの力を入れよう  
と思っています。

今日も時間がオーバーしてしまって、またこの  
後の教育委員会にご迷惑おかけして申し訳ありま  
せん。一旦総合教育会議はこれで終わりたいと思  
うんですけど、冒頭私が長々とお話させていただ  
いた不登校の問題、不登校というか、不登校とい  
う括りじゃない、子どもたちを取り巻く変化。学  
校、家庭、社会、地域、こういう幅広い議論で、  
また近く開催できればと思っていますので、よろ  
しくお願いいたします。

#### **企画政策部長 山中 さと子**

それでは次第「4 その他」に移ります。何かご  
ざいませんでしょうか。

#### **企画政策課長 三岳 和裕**

企画政策課から、お知らせをさせていただき  
たいと思います。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」  
第1条の3に基づき策定しております、大村市教  
育大綱の期間、終期が今年度末ということになっ

ておりますので、今後、新たな大綱の策定に向け  
て取り組んでいきたいと思っており、この総合教  
育会議の中でも協議、調整をさせていただきたい  
と思いますので、どうぞよろしくお願ひします。  
以上でございます。

#### **教育委員 朝長 昭光**

ここで言っているかわかりませんが、富松神社  
の宮司の久田松君が同級生なんですけど、松林飯  
山の本を書いて、非常に内容がよく調べていてと  
てもいいので、ぜひこういう本は、大村市内だけ  
でも子どもたちにも読んでほしいと思います。本  
当はテレビドラマとかで使われたら非常に嬉しい  
んですけども、何かの形で広がればなと思いま  
した。

#### **大村市長 園田 裕史**

ありがとうございます。私も宮司から寄贈い  
ただきましたので、しっかり読ませていただき  
たいと思っています。

#### **企画政策部長 山中 さと子**

他にございませんでしょうか。次回の総合教育  
会議の日程ですが、次回は8月を予定しておりま  
す。教育委員会8月定例会と同じ日に開催いたし  
ますので、後日ご案内をさせていただきます。

それでは以上をもちまして、令和6年度第1回  
総合教育会議を終了いたします。本日は誠にあり  
がとうございました。